

# 文化史・文化理論の再構築

研究代表者 佐々木 充

## 1. 分担者

福 沢 栄 司  
三 浦 淳  
斎 藤 陽 一  
猪 俣 賢 司  
逸 見 龍 生  
番 場 俊  
石 田 美 紀  
福 田 一 雄

## 2. 2008年度の研究活動の概要

20世紀的な知を再検討し、文化史・文化理論の再構築を目指す本プロジェクトは、(a)表現媒体間の比較研究、(b)文化媒介のダイナミクス、(c)大衆文化へのアプローチ、(d)物語理論とイメージ論の四点を中心に進められている。以下、2008年度の研究の概要を述べる。

今年度は『人文科学研究』（第124輯，2009年12月3月）誌上で、メンバー4人（佐々木 充，斎藤陽一，猪俣賢司，逸見龍生）による特集を組んだ。メンバー個々人の活動状況は以下の通りである。佐々木充は、小林秀雄の批評の文化史的位置を問い、19世紀シェイクスピア学における自然概念を追究した。三浦淳は、鯨イルカ・イデオロギーについての考察を継続し、戦後日本の音楽批評、チャップリンの文化史的意味について考察した。斎藤陽一は、演劇におけるスタニスラフスキー・システムをめぐる考察を行った。猪俣賢司は、ゴジラ映画における「南洋」の表象論的・歴史的な相互関係の研究を行い、ゴジラ映画を「東京」を描き続けた映画史として新たに捉え直し、その延長として、小

津安二郎の映画研究を行った。逸見龍生は、十八世紀哲学的地下文書における「検討」概念の生成と構造について、また、『百科全書』研究の新地平について考察した。番場俊はドストエフスキーの作品に対するメディア論的なアプローチを通じて、表象文化論の理論的枠組みの再検討を行うとともに、イコンからマレーヴィチにいたるロシア美術の反遠近法の伝統を考察し、19世紀後半から20世紀初めにおける身体と表象の関係について検討した。石田美紀は、現代のサブカルチャーの諸相について、〈やおい〉、宝塚、ホラー映画などの観点から考察した。

### 3. 2008年度の研究成果の概要

「研究成果一覧」の通り。

### 4. 2008年度の研究成果の一覧

#### ○著作

- ・逸見龍生：野沢協監訳、逸見龍生ほか訳『啓蒙の地下文書』、共訳、2008年10月、法政大学出版局（訳と注解、解題）。
- ・番場俊「絵画の始まりと終わり、そして顔の出現と消滅について——イコンからマレーヴィチへ」、栗原隆（編著）『形と空間のなかの私』東北大学出版会、2008年4月、305-323頁。
- ・番場俊「表象文化論——イメージ／テキスト／身体／夢」、栗原隆（編著）『人文学の生まれるところ』東北大学出版会、2009年3月、91-108頁。
- ・石田美紀『密やかな教育〈やおい・ボーイズラブ前史〉』洛北出版、2008年11月。
- ・石田美紀「女たちの絆—退団後の天海祐希と「キャリアウーマン」たち」、青弓社編集部編『宝塚という装置』、青弓社、2009年3月、258-279頁。
- ・石田美紀「映像文化論—ホラー映画『女優霊』と原初の映像」、栗原隆編『人文学の生まれるところ』、東北大学出版会、2009年3月、299-316

頁。

○論文

- ・佐々木 充「小林秀雄の近代批評—誤訳とずらしの手法について—」, 『人文科学研究』, 第124輯, 2009年12月3月, 75-104頁。
- ・佐々木 充「シェイクスピアはロマン派?—19世紀前半におけるシェイクスピア—」, 『19世紀学研究』, 第3号, 2009年3月, 103-118頁。
- ・三浦淳「鯨イルカ・イデオロギーを考える (IV)—ジョン・C・リリーの場合—」『人文科学研究第122輯』2008年7月 (Y113~134ページ)。
- ・齋藤陽一「スタニスラフスキー・システムをめぐる一考察」『人文科学研究』第124輯 (pp.27-43)。
- ・猪俣賢司「東京の地理学と小津安二郎の映画技法—鉄道路線とゴジラ映画の視覚から—」, 新潟大学人文学部研究紀要『人文科学研究』, 第124輯, 2009年3月31日, 45-73頁。
- ・猪俣賢司「南洋史観とゴジラ映画史—皇国日本の幻想地理学と福永武彦のインファント島—」, 新潟大学人文学部研究紀要『人文科学研究』, 第123輯, 2008年10月30日, 81-111頁。
- ・猪俣賢司「もう一つの南洋と望郷の日本—サンダカンとアナタハンからの鎮魂歌—」, 新潟大学人文学部紀要『人文科学研究』, 第122輯, 2008年7月3日, 135-158頁。
- ・逸見龍生「『百科全書』研究の新地平」『日本18世紀学会年報』第23号, 2008年, pp.8-10。
- ・逸見龍生「『検討』概念の生成と構造—十八世紀哲学的地下文書『宗教の検討』について—」『人文科学研究』第124輯, 2009年3月, pp.91-109。
- ・石田美紀「『ヒューマニズム』と『センチメンタリズム』のすぐそばで—『A.I.』と『アミスタッド』」, 『ユリイカ』2008年7月号, 112-119頁。
- ・石田美紀「『中の人』になる—〈声もどき (ボーカロイド)〉が可能にしたもの」, 『ユリイカ』2008年12月臨時増刊号, 88-94頁。

○学会・研究会での発表・報告

- ・佐々木 充「シェイクスピアはロマン派?—19世紀前半におけるシェイクスピア—」, 19世紀学研究所第3回国際シンポジウム 19世紀の再評価—19世紀の可能性— 2008年10月4日 新潟大学 松風会館2F 第一会議室。
- ・佐々木 充「批評の声と学問の声—小林秀雄と吉川幸次郎—」, 新潟大学人文学部研究プロジェクト シンポジウム「声とテキスト論」, 2009年3月21日, 新潟大学総合教育研究棟D棟1階大会議室。
- ・佐々木 充「小林秀雄における声の二重性について—『ゴッホの手紙』から—」, 新潟大学人文学部研究プロジェクト「文化史・文化理論の再構築」2008年12月11日午後6時, 新潟大学総合教育研究棟デジタルアーカイヴ室。
- ・三浦淳「戦後日本の音楽批評」新潟大学大学院現代社会文化研究科公開講座「音楽と社会」第4回, 2008年5月7日午後6時から7時30分まで, プラウカ3の新潟大学新潟駅南キャンパス講義室にて。
- ・三浦淳「チャップリンとその時代」2008年5月14日, 新潟市民映画館シネ・ウインドのチャップリン特集を記念した4回連続の講演「チャップリン談義」の第2夜。新潟市総合福祉会館。
- ・斎藤陽一「スタニスラフスキー・システムをめぐる一考察」2009年2月23日 新潟大学において諫早勇一氏を代表者とする科学研究費補助金・基盤研究(B)「RUSSIAN PRAGUE—両大戦間のプラハにおける文化の交錯の研究」冬季研究会。
- ・逸見龍生「啓蒙の東と西」(フランス語による報告:タイトル「検討概念の生成と構造」) 国際研究集会・名古屋大学, 2008年9月23日。

○全国学会の開催・講演・報告

- ・番場俊, 表象文化論学会第3回研究発表集会のセッション「虚の力:イメージ/空間の構築」の司会。2008年11月15日(土), 東京大学駒場キャンパス。

○学内および学内を中心とした学会・研究会の開催・司会

- ・佐々木充「表現文化研究会」の開催と司会（発表者：駒形千夏「語学教育における言語バイオグラフィー」、佐々木 充「小林秀雄における声の二重性について——『ゴッホの手紙』から——」、新潟大学人文学部研究プロジェクト「文化史・文化理論の再構築」、「声とテキスト論」・現社研プロジェクト「表象文化の比較総合的研究」共催、2008年12月11日午後6時、新潟大学総合教育研究棟デジタルアーカイヴ室）
- ・佐々木充「表現文化研究会」の開催と司会（発表者：鈴木孝庸「祇園精舎〈語り〉の変遷」、新潟大学人文学部研究プロジェクト「文化史・文化理論の再構築」主催、「声とテキスト論」・現社研プロジェクト「表象文化の比較総合的研究」共催、2008年1月30日6時より2時間、総合教育研究棟3階デジタルアーカイヴ室）。
- ・番場俊、シンポジウム「声とテキスト論」（主催：新潟大学人文学部研究プロジェクト「声とテキスト論」、共催：科学研究費補助金基盤研究C「声とテキストに関する比較総合的研究」（代表 高木裕、新潟大学人文学部 研究プロジェクト「文化史・文化理論の再構築」）におけるワークショップ「声と感覚の日本文学」の司会。2009年3月21日、新潟大学。

○書評・紹介・インタビュー記事

- ・三浦淳 アクセル・ブラウンズ著・浅井晶子訳『ノック人とツルの森』（河出書房新社）2008年9月22日 産経新聞読書欄（第11面）に書評を掲載。
- ・三浦淳 映画「ベルリン・フィル 最高のハーモニーを求めて」の紹介記事「伝統背負い新しさ追求」を掲載。2009年3月23日 新潟日報朝刊文化欄（第10面）。
- ・三浦淳「（水産資源持続&利用 クジラ編 連載06）欧米主導の国際政治に酷似 価値観の影に差別」2008年5月15日 「日刊 水産経済新聞」にインタビュー記事掲載（第1面）。

○科研費

- ・佐々木 充 基盤研究(C)「〈声〉とテキストに関する比較総合研究」(分担, 平成19~20年度, 研究代表者・高木裕)。
- ・番場俊 基盤研究(C)「19世紀後半から20世紀初めのロシアにおける身体と表象の関係の構造転換」(代表, 平成20~23年度)。
- ・番場俊 基盤研究(C)「〈声〉とテキストに関する比較総合研究」(分担, 平成19~20年度, 研究代表者・高木裕)。

○調査等

- ・番場俊 9月7日~9日に北海道大学附属図書館およびスラブ研究センターにて資料調査(基盤研究(C)「19世紀後半から20世紀初めのロシアにおける身体と表象の関係の構造転換」)。
- ・番場俊 10月30日に東京国際大学にて資料調査(基盤研究(C)「19世紀後半から20世紀初めのロシアにおける身体と表象の関係の構造転換」)。